

# おたる 西別院だより

## 報 恩 講 号

親鸞聖人絵伝 徳力善雪筆

第六幅  
縦二三五・五cm 横一五一・五cm



堅幅に構成されている絵伝には大体四幅、六幅等が普通であるが、善雪は八幅として、場面の数を一、二種にしてゆったりと見易いように配置している。  
第六幅には聖人が越後から常陸に向う旅、「稲田興法」と「弁円済度」が描かれていて、画面には全体的に空間を広くして、山並や季節の花木等を豊かに織入れ、和やかな色調と共に、静かで気品のある画格をつくり出して、絵巻と同じようにやまと絵の古典的なみやびをよく追求している点に注目される。

平成14年度親鸞聖人報恩講は10月12日(土)～16日(水)です。

説教所・教化団体 <b>報 恩 講</b>	9月28日(土)	仏教婦人会	報 恩 講
	9月29日(日)	緑 説 教 所	報 恩 講
	10月19日(土)～20日(日)	奥 沢 説 教 所	報 恩 講
	10月26日(土)～27日(日)	新 光 説 教 所	報 恩 講
	11月	仏 教 青 年 会	報 恩 講
	12月14日(土)	仏 教 壮 年 会	報 恩 講

10月12日(土)より16日(水)まで、月忌参りをお休みさせていただきます。

# 報恩講



輪 番 片 山 晃 英

和歌の浦曲の片男波の  
よせかけよせかけ 帰るごとく  
われ世に繁く 通いきたり

み仏の慈悲 つたえなまし  
一人いてしも 喜びなば  
二人と思え 二人にして  
喜ぶおりは 三人なるぞ  
その一人こそ 親鸞なれ

（報恩講の歌）

秋に取り入れが終わる頃より、各家庭・各寺院で報恩講が勤められます。報恩講とは浄土真宗のご開山・親鸞聖人のご恩を喜び、そのご恩に報いていこうという法要（集い）です。

南無阿彌陀仏は、私たちが自分に都合のいいことをおねだりする言葉でもなければ、亡くなった人を慰める祈りの言葉でもありません。南無阿彌陀仏は「どのようなことがあってもあなたをすることができない」と、つねに私たちが案じてくださる阿彌陀如来さまの喚び声なのです。お姑さんの死を縁にお寺参りをはじめた夫人が、こん

な話をして下さいました。

私のお姑さんは外面（そとづら）はよい人ですが、家の中では本当に難しい人でした。家の中の姑の難しさを知らない人達は、私の顔を見るたびに、「いいお姑さんで、あなたは幸せですね」というのです。その都度「はい、私は幸せ者です、いい姑で」と答えておりました。しかし、腹の中では、「こんな難しい姑がいるから私の苦勞が絶えない。家の中もうまく行かない。早く死んでくれれば」と願うことがしばしばでありました。

み教えを聞くまでは、そんな自分を「恐ろしい」と思ったことは一度もありませんでした。今、私はなんと恐ろしいことを考えていたのかと、自分に身震いすることがあります。ですが、こんな恐ろしい私をお目当てに「どんな時でも必ず私がおるよ」と喚びかけてくださる南無阿彌陀仏があつたのです。私はこのみ教えに遇わせてもらってよかつたと、この頃しみじみ思います。これが親鸞様のご恩なのです。

私のような恐ろしい人間が、南無阿彌陀仏に遇わなかつたら死ぬまで自分のありのままの姿に気づかず、地獄への道を歩み続けたことでしょうか。親鸞様にお逢いできて本当によかつたとおもいます……。と、語られました。親鸞聖人にお会い出来たことに感謝（頭が下がる）いたすのみです。

なお小樽別院報恩講は例年の通り、十月十二日より十六日までお勤まりになります。

親鸞聖人のご命日の一月十六日には、京都のご本山へおまいりするのが本来ですから、小樽別院は「お引き上げ」「お取り越し」としてお勤め致します。

合掌

## 宗祖親鸞聖人報恩講法要日程表

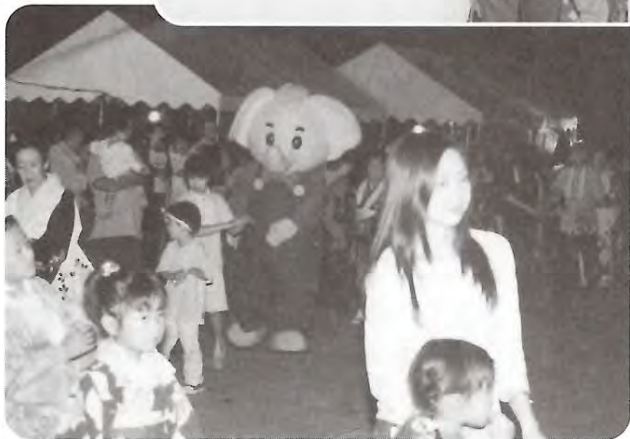
期 日	時 間	法 要 ・ 行 事	布 教（法話）
十一日（金）	九時十五分 十時三十分	○双葉高校参拝（3学年） ○三圓合同参拝	布教一席 大江師
十二日（土）	六時三十分 十時 十三時三十分	○晨朝（正信偈草讀六首引） 和讃（三朝浄土） ○日中（十一礼作法） ○遠夜（大師影供作法） ○初夜（般若講） 御伝鈔上巻拝読 祖徳讃仰	布教一席 大江師 布教一席 大江師 布教一席 大江師
十三日（日）	六時三十分 十時 十三時三十分 十八時	○晨朝（正信偈草讀六首引） 和讃（五十六徳） ○日中（十一礼作法） ○遠夜（奉讃大師作法） ○初夜（没礼讃偈） 祖徳讃仰	崇敬法中（三十分） 布教一席 大江師 布教一席 大江師 布教一席 大江師
十四日（月）	六時三十分 十時 十三時三十分 十八時	○晨朝（正信偈草讀六首引） 和讃（尊者阿難） ○日中（十一礼作法） ○遠夜（五會念仏作法） 御俗姓拝読 ○物故者追悼法要 ○初夜（初夜礼讃偈） 御伝鈔下巻拝読 祖徳讃仰	布教一席 大江師 布教一席 大江師 布教一席 大江師 崇敬法中（三十分） 布教一席 大江師
十五日（火）	十八時	○後夜（讀仏偈）	布教一席 大江師
十六日（水）	六時三十分 十時	○晨朝（正信偈草讀六首引） 和讃（彌陀成仏） ○満日中（報恩講作法） 代表焼香・御礼言上	布教一席 大江師 布教一席 大江師

講師／浄土真宗本願寺派布教使

大江 智朗 師

# 別院フォトクラブ

お盆編



次回もお楽しみに。

おかげさまで創業227年 京都店開店107年



## 京 仏 具 小 堀

札幌店 / 〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目1番19号  
 ☎ (011) 512-5171 (代) FAX (011) 512-5183  
 本 店 / 〒600-8175 京都市下区烏丸通正面  
 ☎ (011) 512-5171 (代) FAX (011) 512-5183  
 東京店・練馬店・福岡店・小堀京仏具工房・滋賀工場  
 インターネットホームページ <http://www.kobori.co.jp>

生花を使って花祭壇

## 札樽葬祭(株)

TEL 34-0444  
奥沢1-16-2

## 花の店 カトリア(有)

TEL 23-6487  
奥沢1-17-3

## 第二十一回晨朝百日参拝 達成者のお知らせ

平成十四年度の百日参拝が終了しました。今年は二十二人の方々が百日参拝を達成されましたのでお知らせします。

なお小樽別院では年間を通じて毎朝六時半よりお晨朝のおつとめが行われています。皆様お誘い合わせの上、是非ともご参拝下さい。

### 【啓勲賞 9名】

川崎 正吉様、荒木美津子様  
 棧敷美恵子様、佐野 緑様  
 長谷部和子様、本間 静枝様  
 前田 幸一様、前田 民子様  
 和崎 光晴様

### 【精勤賞 13名】

岩船 寿様、悦永アサエ様  
 桶 ノブ様、嶋田アイ子様  
 清水 和子様、鈴木富美子様  
 辻井富士男様、長谷川ユキ様  
 平田 晴己様、三浦 幸子様  
 見楚谷光子様 宮本 みい様  
 安田 芳枝様

## 別院門信徒物故者追悼 法要のご案内

慈光のもと門信徒の皆様には、益々ご健勝にてお念仏相続のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび小樽別院本堂におきまして、今日まで別院にご縁があった方々の追悼法要を左記の通り執り行います。

このご法要は、今の世が多くの人々の尊い命の上に成り立っていることに一人ひとりが思いを致し、生きとし生けるものすべての命の尊さに目覚め、門信徒の皆様と共に先だつていかれた方々を偲ばせていただく法要であります。

このご縁に一人でも多くの方々のご参拝をいただきたくご案内申し上げます。

記

日時 平成十四年十月十五日(火)

十三時三十分

(報恩講大連夜に引き続き)

場所 本願寺小樽別院本堂

## 伝絵と絵伝と御伝鈔

親鸞聖人の生涯を記した伝記に、「親鸞聖人伝絵」と「親鸞聖人絵伝」と「御伝鈔」というのがあります。たいへんまぎらわしい名称ですが、真宗教団ではそれぞれ使い分けていますので、まずその説明からお話を始めましょう。

親鸞聖人が亡くなられてから満三十三年にあたる永仁三年(二九五)十月、聖人の曾孫にあたる本願寺第三世宗主・覚如上人が、聖人の生涯をテーマにした絵巻を制作されました。この絵巻というのは、紙を横に長く貼りつないで、これに文章(詞書と言います)と絵とを交互に配置した巻物で、平安時代の中期から物語を題材として制作が始まり、親鸞聖人が在世の鎌倉時代になると、戦争の話や寺院の由来などをテーマにした絵巻が盛んに作られるようになっていきました。ことに覚如上人の青年期には、偉いお坊さんの伝記を絵巻形式で作ることが流行し始めていきました。上人は、その風潮を先取りするかのようになり、親鸞聖人の絵巻を制作されたのです。

このとき上人はまだ二十六歳という若さでしたが、それより前、二年間にわたって、父覚恵上人と一緒に東国へ下向して、曾祖父聖人の遺跡を巡拝したり、聖人から直接教えを受けた門弟たちと会って、聖人の行状についてのお話を聞いたりして詳しく調べ、それにもとづいてこの制作に当たられたようです。全体は十三段からなり、詞書は上人自ら筆をふるい、絵は康楽寺浄賢という画家に描かせました。これが「親鸞聖人伝絵」、略して「伝絵」です。

こうして「伝絵」ができること、門弟たちは

たいへん喜んで、上人にお願いしていくつも作っていただくことになりましたし、上人は上人で、その制作の都度、推敲改訂を加えられました。たとえば、全体の題名は、最初は「善信聖人絵」と名付けられたのですが、二ヶ月後に関東の門弟に与えるための一本を制作した際には、「善信聖人親鸞伝絵」と改め、晩年近くになると、「本願寺聖人親鸞伝絵」となっています。内容も最初は上巻八段、下巻七段の計十三段だったのですが、後になると、別に言い伝えられていた聖人のご事績を二つ追加して、上巻八段、下巻七段の計十五段となっています。

ところで、絵巻というのは、もとに貴族たちが物語を鑑賞するために作ったのが始まりでしたから、同時にそれを眺めるのはせいぜい数人どまりで、多数の人びとが一緒にこれを見ることはできません。真宗寺院のように、大ぜいの門徒が集まる場には不向きな形式です。そこで絵巻の中の絵と詞書とを切り離して、絵だけをならべて堅型の掛軸にし、それを吊り下げて人びとに見てもらい、詞書の方は一冊の書籍にして、それを絵の前で読みあげることが考え出されました。大衆本位の真宗教団にはうってつけの形式でしたから、たちまちそれが広く流布するようになりました。その絵の掛軸が「絵伝」で、詞書を集めた書籍が「御伝鈔」です。「絵伝」と「伝絵」とはまぎらわしいですが、真宗教団ではこのように使い分けする慣行になっていますので、どうかご諒承ください。

# みんなの力で 本堂平成大修復を 成功させよう



起工式之景 明治44年5月21日撮影

## 本堂平成大修復について（お願い）

小樽別院本堂は大正元年に建立され、90年の間風雪に耐えてまいりました。しかし現在まで本格的な改修がなされておらず老朽化が著しいため、今年度より5ヶ年計画にて本堂・鐘楼堂の修復を行うことが決まりました。

私たちの心のふるさとである、ご本堂を子や孫の世代に引き継いでいくため、門信徒の皆様のご深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

合掌

# 十人十声

## ●生活の軸



武藤 二孝

人間はなぜ合掌したり、おがんだりしなければなりませんかと問う人がありますが、その合掌は毎日の生活をかえりみて、生活の統一をはかるといふことではないでしょうか。私たちの生活において、もし中心を決定し統一を保つことができなかつたら、生活はばらばらに分裂し、方向のないものになってしまう。

人間は体を動かして働くことは大切ですが、それと同時にじっと生活の方向を見つめ、生活の針路を定めることを忘れてはならないでしょう。蓮如上人は一日のたしなみには、朝のお勤めを欠かさないようになしなむべきだといわれています。それはまた、人間が仏様の前でおつとめをしたり、聞法をしたりすることは、ひまがあつたらひまつぶしに出かけるというよなものでなく、特別に時間を設けてでも心がけるべき大切なことであるといえましよう。ややもすると坐っておつとめをしたり、聞法に出かけたりすることは趣味のよなもので、我々の生活にとって余分なことのように思う人がいるかも知れません。

しかし、合掌の生活をしていくということでは、私たちが生活設計をしていくうえに、欠いてはならない大切なことではないでしょうか。

## ●なまけもの



磯村 真一

「こんな物があつたら便利なのに」という物は技術の進歩でほとんどの事が実現する、今やそんな時代になった。しかし、よく考えてみると便利になつたといふことは、逆にいうとその分なまけているといふことにならないだろうか？ テレビのリモコンを例に挙げると、あれば便利だが、その分人間は動かなくなる。テレビもリモコンがあるのが前提で、それを紛失するとテレビの操作が大変になる。

何故こんな話をするのかというと、私は最近腕時計を購入した。これが優れ物で、電池交換以外は操作が不要で、時間合わせは自動的に時計がしてくれるという物だ。一見便利ないように見えるが、最近になつて「時計の時間くらい自分で合わせよう」と言い聞かせるようになった。なまけもの代表は、もしかすると私なのかも知れない。

## ●ご本尊



温井 卓生

現在では、お寺のご本尊は、木像の阿彌陀如来、みなさんの家庭のお仏壇のご本尊は、絵像の阿彌陀様です。私達は、このことになんの疑問も感じませんが、蓮如上人のお言葉に、「他流には、名号よりは絵像、絵像よりは木像といふなり。当流には木像より絵像、絵像よりは名号といふなり」とあります。どういふことかという、「浄土真宗以外の宗派では、ご本尊は、名号より絵像、絵像より

本像がいいといいますが、浄土真宗では、ご本尊は木像より絵像、絵像より名号がいいのです」といふお言葉です。このお言葉を聞くと、今のお寺のご本尊も、家庭の仏壇のご本尊も違つていふように聞こえます。

いったい蓮如上人は、どういうお心で「名号がいい」といわれたのでしょうか。他派のご本尊は、お姿をおがむことによつて、仏を念じ、仏を見、仏に遇うのです。ですから、より具体的なお姿である木像が一番いいのです。しかし、浄土真宗のご本尊は、聞名の対象です。つまりお念仏を称える対象であるといふことです。木像であろうと、絵像であろうと、そのお姿を通して「どんなことがあつてもあなたをすくう」といつてくださる「南無阿彌陀仏」のよび声を聞くのです。そこを間違わないようにとのご注意が、「当流には木像より絵像、絵像よりは名号といふなり」のお言葉なのです。

## ●いただきます



猪口 大悟

私たちは、食事を頂くとき、手を合わせ「いただきます」と言います。これは、み仏と多くの方々のお助けにより、また、食される多くの命の犠牲により、わたしたちが生きているために必要な食事を頂くことができることを、感謝していただくということを宣言する言葉であり、私たちの生活の中で、大切な言葉であります。

しかしながら、私たちは日常の中で、この言葉を発するとき、果たして本当に感謝をしているのでしょうか。食事を頂く前に、ただ、一連の流れの中で、意識せずに言っているのではないのでしょうか。朝起きると、お母さんが朝食を作つてくれる、お弁当を作つてくれる。そういう日々の生活を過ごしていた少年時代。私は母に対して毎日感謝をして「いただきます

す」を言っていただろうか。それは確かに時々、思い出したように感謝をしていたかもしれない。しかしその生活が当たり前だと感じていた毎日の中で、常に感謝の「いただきます」をしていたらどうか。

私たちは、それが無くなつたとき初めて当たり前だと思つていたことが、実はそうでは無かつたと思つたことがある。私たちが毎日食事を頂くことができること、着る服があること、安心して寝ることができる住居があることが「当たり前」ではなかつた。

## ●三蔵法師



渡部 恵

みなさんは三蔵法師と聞くと、どんなことを連想しますか？西遊記と答える人がきつと多いのではないのでしょうか？西遊記は、玄奘（げんじょう）という唐時代の中国の僧が、仏教研究一筋に、国禁を犯してまでもインドへの遊学を志し、様々な困難を克服して十九年の大旅行を行い、帰国後に大量に持ち帰つた經典の翻訳に従事する一方、旅の記録「大唐西域記」を書いたのがモデルになつているそうです。

ところで、もともと三蔵法師とは、仏教聖典のすべてに精通した高僧を呼ぶ言葉です。さらに仏教がインドから中国に伝わり、經典が漢字に訳されたとき、その仕事の従事した訳経僧の尊称にもなつたそうです。阿彌陀経のはじめに三蔵法師鳩摩羅什（くまらじゅう）奉詔訳と書かれていたので、ちよつと調べてみました。



みんな 小樽幼稚園 仲良し

～まこと（いのち）の保育を行ないます～

当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるよう保育に努めています。  
又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

さて、今年度も園児募集の時期が近付いて参りました。ご近所、皆様お誘い合わせで、是非一度見学にお越し下さい。



- ★保育時間 →月曜日～金曜日（8:40～13:30）
- ★昼食 →お弁当～週3回 / 給食～週2回
- ★預り保育 →月曜日～金曜日（17:30迄）行います。（15:00迄は無料です）
- ★プール遊び →年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。
- ★送迎バス →ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。
- ★主な行事 →花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・報恩講・お遊戯会・おもちゃつきなど。
- ★プレ保育 →週1回（午前中）行います。平成15年度よりスタート！（ならし保育）詳しくは入園願書をごらん下さい。

お知らせ

- 公開保育 →10月18日（金）、21日（月）、22日（火）の9:15～12:00  
ご都合のよろしい日時にお越し下さい。
- 体験入園 →10月19日（土）の10:00～11:00、28日（月）の13:30～14:30  
◎2日間参加していただいてもかまいません。

※ 上記の5日間以外の日も、見学できます。お気軽にお問い合わせ下さい。  
※ 詳しくは入園願書をごらん下さい。

園児募集

途中入園可能

- ◎募集園児 3才児（3年保育）20名  
4才児（2年保育）50名  
5才児（1年保育）30名
- ◎願書配布 平成14年10月15日（火）から（予定）
- ◎願書受付 平成14年11月1日（金）から（予定）



◆10月から街頭に園児募集のポスターを掲示します!◆

学校法人 小樽龍谷学園 小樽市若松1丁目4番17号  
小樽幼稚園 TEL・FAX 0134-22-6536